今こそドル買いチャンス？2022年米ドル為替レートの見通し・買い方を解説

原文:
https://www.btcc.com/ja-JP/academy/financial-investment/is-now-the-time-to-buy-the-dollar-2022-u-s-dollar-exchange-rate-outlook-and-buying-opportunities

1944年のブレトンウッズ体制発足以来、米ドルは国際通貨システムにおいて徐々に支配的な地位を占め、世界の通貨取引の90%近くが米ドルと連動しており、世界を代表する基軸通貨となっています。その結果、米ドルは現在、外国為替市場で最も取引され、広く知られている外貨であり、多くの人々が投資を行う際のエントリーポイントとして好んで使用しています。

しかし、近年のコロナ禍や経済の混乱に伴い、米ドルの変動が大きく、多くの投資家が米ドルを購入するタイミングを迷っています。

本記事では、近年の米ドル為替レートの推移や、米ドルに影響を与えた要因、米ドルの今後の見通し、買い方などを解説していきますので、ご参考になれば幸いです。

【関連記事】

FX（外国為替取引）とは？特徴や注意点、やり方などを徹底解説

為替介入とは？為替相場への影響や効果を徹底解説

ドル高からもたらす仮想通貨市場の影響は？

米ドルに興味を持つ方は、BTCC公式サイトをチェックしてみてください。

BTCC口座開設はこちら

目次

1. 米ドルとは

2. 米ドルを買う理由：ユースケースとメリット

- 米ドルのユースケース
- 米ドル購入のメリット

3. 米ドルの為替レートの推移（1970年～2022年）

4. 米ドルの影響要因

- 失業率
- インフレ
- 米国の金融政策
- 世界的なサプライチェーン危機が深刻化する可能性
- ドル覇権を揺るがす人民元高
- ヘッジ資産としてビットコインが新たな選択肢に

5. 米ドル為替見通し【2022年】

6. 今こそドル買いチャンス？

7. 米ドルの3つの買い方

- 外貨建て口座取引
- 先物取引
- 差金決済取引（外国為替証拠金取引）

8. 終わりに

米ドルとは

米ドル（USD）の一般的な通貨記号は「$」、硬貨の一般的な記号は「¢」で、100セントを1ドルとしています。

1776年のアメリカ合衆国の独立後、米ドルは初めて流通通貨として使われていました。1792年にアメリカの貨幣を規制する「アメリカ貨幣流通法」が可決され、米ドルは法定通貨として使用されています。

米国以外にも、エルサルバドルやパナマ、マーシャル諸島など、多くの国が米ドルを自国の法定通貨として利用しています。

Google Playで手に入れよう　App Storeからダウンロード
日本ユーザー様限定特典（10,055USDTギフトパック）《《《《

米ドルを買う理由：ユースケースとメリット

1.米ドルのユースケース

一般的に米ドルの使い道は、以下の3つに大別されます。

(1) 海外支出

また、近年、海外の電子商取引プラットフォームの利用が容易になったことで、消費者が国境を越えて海外で買い物をすることに慣れてきたため、米ドルの利用が大きく増加していきます。

(2) 定期預金に係る利息

「外貨定期預金」も、慎重さを好む多くの投資家が利用する一般的な資金運用方法です。 インターネット銀行や窓口で外貨預金伝票を開設すれば、定期預金期間中に一定の利息を受け取ったり、満期時に元本と利息を受け取ったりすることが可能です。また、現在の投資動向に対応し、多くの銀行が短期定期預金を導入し、より柔軟な資金運用を可能にしています。

(3)外貨建投資

外貨を買っても、海外に行く必要がなければ意味がないと思っている人も多いのではないでしょうか。世界で最も広く流通している通貨である米ドルは、多くの人が外貨投資・為替取引を行う際の第一の選択肢としています。投資家は、業界の市場に対する懸念や投資リスクの嗜好に基づき、資金運用に適した商品を選択することができます。

2.米ドル購入のメリット

(1) ヘッジの必要性

米ドルは世界の基軸通貨として認められており、安全資産として長い間利用されてきました。そのため、米ドルのヘッジ特性により、一般的な環境下で資産が下落した場合のリスクを部分的にカバーすることができます。

(2) 米ドル建ての金利

一般に、米国の金融政策は柔軟であるため、米国は日本よりも利上げが進んでおり、米ドル預金の金利は日本円預金の金利よりも高いのが普通です。一方、日本の外貨預金は米ドル預金が主流であるため、銀行は米ドル建て預金の選択肢を幅広く用意しており、投資家は自分のニーズや満期に合わせて預金オプションを選ぶことができます。

米ドルの為替レートの推移（1970年～2022年）

米ドルの為替レートを分析する最も簡単な方法は、ドルインデックス（ドル指数）を見ることです。ドルインデックスは、国際的な外国為替市場における米ドルのパフォーマンスを示す複合指標であり、複数の主要通貨に対する米ドルの為替レートの動きを複合的に反映し、米ドルの強弱を測るために使用されます。

ドルインデックスが上昇すると、米ドルが強くなり、主要通貨（ユーロ、日本円、ポンド、カナダドル、スウェーデンクローナ、スイスフラン）が米ドルに対して下落し、ドルインデックスが低下すると、米ドルが弱くなり、他の通貨が高くなることを意味しています。

1970年代にブレトンウッズ体制が崩壊して以来、ドル指数は7つの段階を経てきました。

①1971年～1980年衰退期

ニクソン政権は「金本位制」の無効を宣言させられ、それ以来、ドル建て金価格は激しく変動し、ドルは乱高下した。その後、石油危機が起こり、ドルインデックスは90ポイント以下にまで低迷しました。

②1980年～1985年好況期

ウォーカー前FRB議長がインフレに対して強い姿勢で臨んでいた。ドルインデックスは1985年にピークを迎えるまで強含みで推移し、ドルの強気相場は終了しました。

③1985年～1995年衰退期

莫大な貿易赤字と財政赤字という「双子の赤字」を抱えながら、米ドルは長い弱気相場に突入しました。

④1995年～2002年好況期

ビル・クリントンが大統領に再選され、米国をインターネット時代へと導き、新興産業が高成長を起こし、資本が米国に還流し、ドルインデックスは120ポイントの最高値を記録しました。

⑤2002年～2010年衰退期

インターネットバブルの崩壊、9・11アメリカ同時多発テロ事件、長期間の量的緩和を経て、2008年に金融津波が発生すると、ドル安が進み、ドルインデックスは60前後の安値圏で推移したが、底値まで下落しました。

⑥2012年～2021年後半

米国の景気回復がドルを押し上げ、FRBが利上げを繰り返し捏造し、ドルインデックスは上昇するはずだったが、新型コロナウイルス発生により、インデックスはしばらく上昇し、2021年後半まで整理局面に入っていました。

⑦2022年初頭～2022年10月現在

米連邦準備制度理事会（FRB）がインフレと失業を抑えるために年明けから数回の利上げを行い、米ドルは再び統合から新しい上昇局面に入るという新しいサイクルが形成されました。

Google Playで手に入れよう　　App Storeからダウンロード
日本ユーザー様限定特典（10,055USDTギフトパック）　<<<<

米ドルの影響要因

以上のような米ドルの為替レートの推移を分析すると、米ドルの影響要因は大きく分けて以下の6つがあります。

1. 失業率

米国の失業率は、経済情勢の変化の結果をある程度反映した資本市場の重要な指標です。2020年は、1939年に記録が始まって以来、米国における失業率が最悪の年となりましたが、コロナ禍が正常化し、米国をはじめとする世界の経済が回復すると、失業者数は徐々に減少しました。

2. インフレ

2020年の新型コロナウイルス以来、米国では店が閉まり、工場が閉鎖され、経営者が従業員を解雇し、大量の失業者が発生しています。市場は、米連邦準備制度理事会（FRB）が利上げによりインフレ率を低下させ、物価を安定させると予想しています。

3. 米国の金融政策

一国の金融政策とは、簡単に言えば、基準金利を調整することでお金の流れをコントロールすることです。米連邦準備制度理事会（FRB）は今年8月27日、世界の中央銀行の年次総会で、インフレがよりよくコントロールされるまで金利を引き上げ、高い水準を維持しなければならないと、極めて「タカ派」な演説を行いました。 このニュースが伝えられると同時に、市場はFRBが今年9月にも50～75bpの利上げを継続し、さらなる金利上昇、通貨引き締め、インフレ抑制を行うと予想したのです。

4. 世界的なサプライチェーン危機が深刻化する可能性

米国については、サプライチェーンの危機と労働力不足が経済見通しを混乱させ、今後1年間の成長に対する最大の脅威となっています。新型コロナの感染者が世界的に急増し、多くの政府が規制を強化したため、世界的に労働力不足が拡大することになります。

5. ドル覇権を揺るがす人民元高

人民元対米ドルは上昇を続けています。市場心理に加え、中国は国際社会に対して積極的に金融市場を開放しており、より多くの海外資本が内陸部の資本市場に直接参入することを許容・奨励しています。モルガン・スタンレーのレポートによると、人民元は10年以内に世界第3位の基軸通貨となり、米ドルに代わってますます多くの国の主要決済通貨となり、米ドルの強い地位はある程度弱められるという。

6. ヘッジ資産としてビットコインが新たな選択肢に

主なヘッジ通貨は、米ドル、ユーロ、日本円、スイスフラン、貴金属の金で、このうち世界で最も取引されている米ドルは、長年にわたり資本家のヘッジの第一選択通貨となっています。しかし、ビットコインの登場以来、仮想通貨は増加の一途をたどっています。 従来の安全資産では圧倒的な資金需要に応えられなくなり、ビットコインをはじめとする多くの仮想通貨が代替資産として台頭し、金を含む米ドルなどのハードコモディティの国際的地位にも直接影響を与えているのです。

米ドル為替見通し【2022年】

2021年の米ドル為替レートは、コロナ禍の抑制、景気回復の進展、例外的状況下での米国を中心とする世界の大国の金融・財政政策など、様々な要因に影響されるでしょう。

2022年3月から8月にかけて、FRBは米国史上最大の累積利上げ回数となる4回の利上げを行いましたが、今後も現在の位置からドル高が進む可能性がある理由をチェックしましょう。

- 新型コロナウイルスに対するワクチン接種が成功し、予想を上回る経済活動の回復を実現
- 米国経済の回復と2022年後半のFRBの利上げ継続が、米ドルの支えとなること
- 米国以外の国の経済成長の鈍化と、インフレ率の緩やかな上昇
- 米国以外の金融政策は、米国に追随して利上げを行わず、利下げや既存の金融政策の維持が期待され、その結果、他の主要通貨に対してドル高が継続
- 中国の経済成長が予想以上に力強いため、中国の貿易が改善し、米国の輸入需要が増加

Google Playで手に入れよう　　App Storeからダウンロード
日本ユーザー様限定特典（10,055USDTギフトパック）《《《《

今こそドル買いチャンス？

現在、米ドルの価格がコロナ禍時よりも高くなっているのは事実ですが、今が米ドルの買い時なのでしょうか。

米国のインフレは現時点（2022年10月）でも非常に深刻で、数カ月にわたる積極的な利上げ後もインフレは大きく減速せず、インフレ対策のために利上げを継続すべきとの発言が多くの当局者からなされています。雇用環境が好調な現在、コロナ禍がきちんとコントロールされている限り、これ以上経済支援法案が提出されることはないでしょう。金融引き締め政策と緩和的でない財政政策により、米ドルは上昇することはあっても下落することはないと思われます。

日本から見ると、インフレ率が米国ほど高くないことなどの政策的要因から、日本は米国よりもはるかに保守的に金利を引き上げており、日本の金融政策は米国よりも緩和的であると言えます。財政政策の面では、日本の財政政策が通貨価値に与える影響は米国ほど大きくなく、米国がすでに財政政策を強化しているのに対し、日本は外国人観光客の拡大に力を尽くしています。この2つの要因により、日本の政策環境は現在、米国よりも緩やかです。

この2点を考慮すると、現在（2022/10）の米ドルは最安値に比べてかなり強くなっているが、日本と米国のガバナンスの違いを考えると、短期的にはまだ買いなのかもしれない。

米ドルの3つの買い方

世界で最も流動性の高い通貨として、米ドルは長い間、世界中で人気のある投資対象でした。

1. 外貨建て口座取引

今後、米ドル高が予想される場合、投資家は銀行の為替レートを見ながら、外貨預金口座に米ドルを安く買い、予想通り米ドル高になったときに米ドルを高く売ることができます。

2. 先物取引

ドルインデックスに関連する商品は、先物市場でも取引可能です。ただし、先物取引には期限があり、最終取引日までにポジションを決済しない場合は、受渡しを行わなければならないことに注意が必要です。また、一部の先物取引（ドルインデックス、株価指数など）は、受渡し可能な現物または金融商品がないため、スポット価格と最終取引日の決済の差額に基づいて現金決済が行われます。

3. 差金決済取引（外国為替証拠金取引）

CFD（差金決済取引）は、株価指数や商品など様々な金融資産を取引することができるデリバティブ投資ツールです。CFD取引のコンセプトは、買い手と売り手が、金融資産の価格変動から利益または損失を生じる契約を締結し、両者は実際に現物の金融資産を保有せずに差額のみを現金で決済することです。

ロングやショートの場合でも利益を狙える利便性と収益性が世界中の投資家から注目され、CFD取引はますます盛んになってきています。したがって、トレーダーはドルインデックスに強気な場合、通貨ペアで米ドル/円（USD/JPY）のロングまたは豪ドル/米ドル（AUD/USD）のショートを選択できますが、米ドルに強気でない場合、ユーロ/米ドル(EUR/USD)、ポンド/米ドル（GBP/USD）のロング、またはUSD/CADのショートを選択することも可能です。もう一つの方法は、ドルインデックスを対象としたCFDなど、米ドル関連のCFDを直接ロングポジションを買うこともできます。

Google Playで手に入れよう　　App Storeからダウンロード
日本ユーザー様限定特典（10,055USDTギフトパック）　<<<<

終わりに

今回は、1970年からの米ドル為替レートの推移や、米ドルの影響要因、米ドルの今後の見通し、買い方を詳しく解説してきました。

FX取引や仮想通貨取引に関してもっと知りたい方は、、BTCC公式サイトをチェックしてみてください。

BTCC公式サイトはこちら

BTCC取引所は、イギリスに設立された暗号資産デリバティブ取引所です。「信頼ができる暗号資産取引を誰もが簡単に利用できる」ことをモットーに、12年以上サービスを提供しています。ロンドンに本部を置くBTCCは現在日本での登録者数が徐々に増加しており、またSNSを通じて日本限定のキャンペーンも度々開催されています。

BTCC口座開設はこちら

【あわせて読みたい】

FX（外国為替取引）とは？ 特徴や注意点、やり方などを徹底解説

為替介入とは？ 為替相場への影響や効果を徹底解説

【為替】ドル円は150円台で堅調推移 CPI発表と日銀金融政策の変更

ドル高からもたらす仮想通貨市場の影響は？